

【ラオス情勢レポート】

2008年10月

外務省アジア大洋州局 南部アジア部

南東アジア第一課

今回(2008年7月～2008年9月)のポイント

- 8月3日、日・ラオス投資協定が発効。
- 8月初旬の連日の強雨により、ラオス中部を中心とする各地で洪水が発生し、死者11名を含む約20万人が被災。我が国は約1200万円相当の緊急援助物資を供与。
- 9月18～23日、ソンポン国家観光庁長官が訪日、「ラオス観光ビジネスフォーラム」(於:東京)を開催。

1. 概観

(1) 国内政治

- (イ) 7月7～26日、第6期国民議会第5回通常会議開催。以下の法案・予算を採択。①マスメディア法(新)、②手工芸法(新)、③家畜・獣医法(新)、④改正判決執行法、⑤改正家族法、⑥2008/09年度経済社会開発計画、⑦2008/09年度政府予算。世界的な原油・食糧価格の高騰にも拘わらず、2007/08年度上半期にGDP成長率7.9%、1人当たりGDP810米ドルを達成したことを発表。
- (ロ) 7月29～31日、ブアソーン首相主宰の内閣・全国県知事合同会議開催。主要な議題は、①次年度の経済社会開発計画及び政府予算の実施に関する政令、②公務員管理の報告と次年度の配置計画、③土地借料・コンセッション料に関する首相令案、④政府サービス手数料徴収の透明性と窓口一本化、⑤森林関連法規の実施方針、⑥中央・地方及び分野間の国内外投資管理業務分担、⑦遠隔地における投資家への免税及び減税政策、⑧外国からの政府開発援助の管理と利用に関する政令案、洪水を始めとする災害対策等。
- (ハ) 8月26～27日、ブアソーン首相主宰の8月定例閣議開催。主な議題は、①洪水被害への対策、②森林管理(森林及び林業管理業務の調整と厳格化に関する首相指令案及び2008/09年度の伐採計画)、③2008/09年度の公務員採用計画(特に教育・保健分野、郡レベルの人員強化)、④投資関連法令(国内投資促進法実施に関する首相令改正案、及び外国投資促進法実施に関する首相令改正案)、⑤地方開発、⑥政府サービス手数料の改正、⑦倹約と浪費防止に関する首相指令案。
- (ニ) 9月18～19日、ブアソーン首相主宰の9月定例閣議開催。主な議題は、①教育制度改革、②国有地借料等(国有地の借料率とコンセッション料率に関する国家主席布告案及び国有地の貸出し、コンセッション付与及び資本化に関する政令)、③政府サービス手数料の改正(前月閣議からの継続)、④政府運営の改善、⑤栄養と食品の安全、⑥米備蓄庫の設立、⑦その他緊急業務(洪水後の復興等)。

(2)外交・対外関係

- (イ)7月4～15日、タイのノンカイ駅とビエンチャンのタナレーン駅を結ぶ鉄道の試験走行実施。
- (ロ)7月14日、バンコクにおいて、ウアン在タイ・ラオス大使とモハマッド・アジャミ・在タイ・クウェート大使がラオス・クウェート間の外交関係樹立に関する共同声明に署名。
- (ハ)7月15日、ラオス国防省において、米国空軍アジア太平洋地域国際医療事務局から103病院に対する米貨12,980ドル相当の医療機材の引渡式を実施。
- (ニ)7月21～24日、トンルン副首相兼外相がASEAN関連外相会合(於:シンガポール)に出席。同22日、高村外相(当時)とトンルン副首相兼外相、キエム・ベトナム副首相兼外相、カオ・キムホン・カンボジア外務国際協力省長官との間で日 CLV 外相会談を実施。
- (ホ)7月29日～8月2日、トンルン副首相兼外相がイランを公式訪問、29～30日に第15回非同盟諸国閣僚会議(於:テヘラン)に出席。
- (ヘ)8月5～6日、ナーセル・クウェート首相がラオスを公式訪問。ブアソーン首相との会談後、両首相は4つの協定(①貿易、②経済協力及び技術協力、③投資の促進及び保護、④二重課税の防止)及び2つの覚書(①二国間協議の運営及び②民間航空分野の協力)に署名。
- (ト)8月7日、チュンマリー国家主席が北京五輪開会式出席のため訪中、胡錦濤国家主席と会談。
- (チ)8月12～13日、テート・タイ外相(当時)がラオスを公式訪問。
- (リ)8月13～15日、プラソプスック上院議長を団長とするタイ上院議員代表団がラオスを訪問。
- (ヌ)8月22日、在ラオス中国大使館で中国に留学する90名(うち修士課程24名、学士課程76名)のラオス人学生の壮行会開催。
- (ル)8月26～30日、チュンマリー国家主席がインドを公式訪問。インド政府は、ラオス洪水被害に対し100万米ドルの支援を約束。「チュ」国家主席とパティル大統領の首脳会談で、インド側は人材育成、保健、社会文化、経済、貿易・投資の分野での支援を表明し、ラオス製品への関税撤廃に合意。会談後、両首脳立ち会いの下、インド政府によるラオス南部開発プロジェクトへの低利子借款供与にかかる文書及び両国商工会議所による覚書に署名。
- (ヲ)8月29日、ラオスからタイ側に不法移民として渡り、タイ・ペッチャブーン県の拘留キャンプに2年間滞在していた30家族119名のモン族がラオスに帰還。ラオス、タイ両国政府は、現在タイに残っている約7,000名の不法移民に関しても本年末までには全員帰還させることで合意。
- (ワ)8月30日～9月2日、ブアソーン首相は北朝鮮を公式訪問。チュアン首相府付き大臣、シタヘン農林大臣、ポンサワット外務副大臣、ブンタビー計画投資副大臣、ケンマニー商工業副大臣他が同行。「ブ」首相と金英逸首相の会談後、両首相の立ち会いの下、経済・貿易・科学技術に関する合同委員会の設立に関する合意文書に署名。
- (カ)9月下旬、トンルン副首相兼外相が第63回国連総会(於:NY)出席。29日、同副首相は①人質行為防止条約、②物品に関する国境管理条約及び③テロ資金供与防止条約の3条約に署名(加盟)。
- (コ)9月21～27日、ポーセンカム情報文化副大臣を団長とするラオス報道協会一行が中国を訪問。両国報道協会の間で2010年までの協力、特に記者及び技術者の養成と、ニュース情報の相互提供・交換の促進について協議。

(タ)9月30日付けラオス語各紙は、米国国務省発行「International Religious Freedom Report 2008」のラオスにおける信仰の自由に関する部分を否定する外務省声明を掲載。

(3)経済・社会情勢

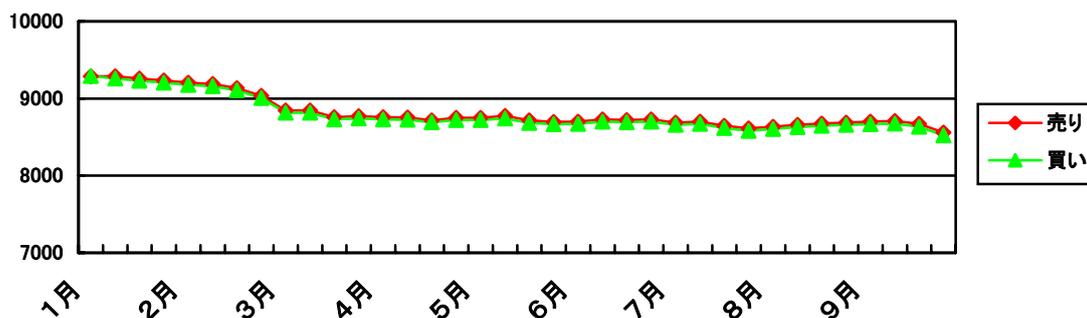
- (イ)7月8日付ビエンチャンタイムズ紙は、サバナケット空港の拡張工事が終わり、8月15日よりビエンチャン・サバナケット間の便が再開されることとなった旨報道。
- (ロ)7月9日付けKPLニュース紙は、中国からラオス経由でタイに続く国道3号線の延長にあり、ラオス・ボケオ県及びタイ・チェンライ県を結ぶ「第4メコン架橋」の建設が明年6月に着工、2011年に完工予定であり、総工費5千9百万ドルは中国政府とタイ政府が50%ずつ出資する旨報道。
- (ハ)8月1日付ビエンチャンタイムズ紙は、ラオス政府が中国企業に対し、2009年SEAゲームに使う国立競技場建設の見返りとして開発権を認めたタートルアン湿地の新市街開発計画が、住民への補償金支払いの困難により、当初の1,600haから200haに縮小された旨報道。
- (ニ)8月21日付KPLニュース紙は、本年9月に着工予定であったラオスのカムワン県とタイのナコンパノム県を結ぶ「第3メコン架橋」(長さ780m、幅7m)につき、昨今の建築資材の価格上昇により着工が遅れる可能性がある旨報道。
- (ホ)8月初旬の連日の強雨により、ラオス中部を中心とする各地で洪水が発生し、死者11名を含む約20万人が被災したほか、農耕地の冠水や民間家屋の損壊等の被害が発生(9月19日時点)。我が国は、約1200万円相当の緊急援助物資(浄水器、テント、毛布、水タンク等)を供与。
- (ヘ)9月22日現地各紙は、ラオス・サバナケット県とタイ・ムクダハーン県を結ぶ第二友好橋(第2メコン国際橋)の利用状況に関し、本年1～9月の間に約50万人が同橋経由でラオスに入国(前年比15%増加)、17万5千台の車両が通過(前年比30%増加)しており、毎日約1800人が利用している旨報道。

【ラオスのインフレ率の推移(2008年):ラオス政府発表】

1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月
6.09%	6.4%	7.73%	8.68%	10.32%	10.20%	9.96%	9.57%	8.49%

【ラオス現地通貨の対ドル為替レートの動き(2008年):ラオス外国商業銀行】

(単位:キープ)



(4) 計報

- (イ) 7月24日、ボーサイカム・ヴォンダラー・エネルギー鉱業大臣が死去。享年60歳。
- (ロ) 9月9日、ヌーハック・プームサワン元ラオス国家主席(在任期間: 92年11月～98年2月)が死去。享年98歳。

3. 日ラオス関係の動向

(1) 要人往来

- (イ) 7月1～10日、「21世紀東アジア青少年大交流計画」により、ラオス高校生代表団69名が訪日。
木村外務副大臣(当時)への表敬を行い、3班に分かれて山形県、富山県、広島県を訪問。
- (ロ) 8月19～22日、参議院ODA調査団派遣第1班がラオスを訪問。
- (ハ) 9月1～2日、佐々江外務審議官がラオスを訪問。
- (ニ) 9月18～23日、ソンポン首相府付き大臣兼国家観光庁長官が訪日し、社団法人日本旅行業協会(JATA)主催「国際観光会議」及び「世界旅行博」に出席、「ラオス観光ビジネスフォーラム」(於: 東京)を開催。

(2) 経済・経済協力

(イ) 経済

8月3日、日・ラオス投資協定が発効。

(ロ) 技術協力

9月16日、ラオス日本人材開発センター及びラオス国立大学経済経営学部により、ラオス国立大学内に経営学修士(MBA)課程が開設。

(ハ) 草の根・人間の安全保障無償

- (i) 7月16日、「セコン県養殖場改善計画」(平成20年度、7, 169, 398円)及び「ナパバーン村・ノンセーン村村道建設計画」(平成20年度、9, 028, 700円)G/C署名式
- (ii) 8月12日、「義肢義足製作用機材導入計画」機材引渡式(平成19年度、5, 717, 988円)
- (iii) 9月11日、「ナムティン地区灌漑建設計画」(平成20年度、1, 113, 728円)及び「クッドケー村・ノンデー村間村落道建設計画」(同年度、9, 321, 822円)G/C署名式

(ニ) 日本NGO連携無償資金協力

7月15日、「ラオス・サラワン県における少数民族の子どもを中心とした初等教育改善事業」G/C署名式(申請団体: (社)シヤンティ国際ボランティア会)(平成20年度、14, 370, 775円)

(ホ) 緊急援助

8月22日、洪水被害による被災者の支援のため、約1200万円相当の緊急援助物資(浄水器、テント、毛布、水タンク等)の供与を決定。同月29日にラオス政府に引渡。

(3) 文化交流

- (イ) 7月26～27日、ラオス柔道連盟と国家スポーツ委員会の共催による第1回全国柔道選手権大会開催。これに先立ち、7月17～22日にラオスの柔道選手約50名が日本からの柔道指導チー

ムによるトレーニングに参加。

- (ロ)9月26～28日の間、「ドラえもののび太の恐竜 2006」、「ガラスのうさぎ」、「銀河鉄道999」の上映会及び日本のアニメーションに関する講演会(以上、在ラオス大使館)、日本人アマチュア歌手によるオペラコンサート、ラオス人による日本語歌唱コンテスト、盆踊り大会(以上、ラオス日本人材開発センター)及び日本人会によるチャリティーバザーを実施。

(4)その他

8月7日、在ラオス大使館にて、マニソット・ケオダラ・ラオス日本人材開発センター所長への「平成20年度外務大臣表彰」の表彰式を実施。

4. 領事情報(※本項目については、在ラオス大使館ホームページで最新の情報をご確認下さい。)

- (1)10月2日付現地紙は、ラオス保健省の調査の結果、ビエンチャン特別市のシャン・チェン市場でメラミンに汚染された二種類の中国製粉ミルク(「伊利」と「蒙牛」が製造したもの)が発見された旨報道。これに先立ち、9月30日、ラオス保健省とWHOは、共同記者発表を发出し、ラオス政府は関係国際機関と協力の上で汚染された乳製品の有無の調査を実施中であり、特に三鹿集団の乳児用牛乳に重点を置いて調査していることを発表している。
- (2)10月8日付けKPLニュースは、9月上旬に発生したラオス北部(ルアンパバーン県及びウドムサイ県)での鳥インフルエンザが終息した旨報道。一方、在ラオス大使館がラオス保健衛生関係者に確認したところ、ルアンパバーン県では10月7日に県庁が鳥インフルエンザ終息宣言を公式に发出したが、ウドムサイ県では鳥インフルエンザが発生した村落周辺に赤ゾーン(発生地区)、黄色ゾーン(警戒地区)が設定されて集中的な監視の下に置かれ、トリの搬出入も制限されているとのことであり、ウドムサイ県への訪問・滞在の際には引き続き注意が必要。

(参考情報)

在ラオス大使館ホームページ

<http://www.la.emb-japan.go.jp/index.j.htm>

海外渡航者のための鳥及び新型インフルエンザに関するQ&A

http://www.anzen.mofa.go.jp/kaian_search/sars_qa.html

広域情報:鳥インフルエンザの流行状況について(2008年10月)

<http://www.anzen.mofa.go.jp/info/info.asp?num=2008C334>

5. 今後の予定

- (1)「東アジア青少年大交流計画」によるメコン諸国高校生団訪日(10月28日～11月6日)
(2)日本アセアンセンター主催「ラオス投資セミナーin バンコク」(11月14日)
(3)日ラオス官民合同対話第二回会合(12月5日 於:ビエンチャン)

(了)

本情報レポートは、出典を明記していない場合、ラオス現地紙を参照したものである。

2009年は日メコン交流年です。外務省ホームページに交流年イベント等の関連情報を掲載したり(URL:http://www.mofa.go.jp/mofaj/area/j_mekong_k/koryu.html)、メールリングリストで情報をお届けしています。お申し込みは、日メコン交流年事務局(E-mail:japanmekong2009@mofa.go.jp)まで。